

## 2023 年度第 1 回 N P O 法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日 時：2023 年 4 月 12 日（水） 午後 8 時 00 分から
- 2 方 法：ZOOM アプリを媒介にしての遠隔会議
- 3 議決権のある理事：9 名  
出席者：座間直壯、清田義昭、齊藤誠一、田中ヒロ、中川恭一、保坂一房、堀 渡  
欠席者：手嶋孝典、堀越洋一郎  
事務局員の参加者：雨谷逸枝

### (1) 第 1 号議案 会員の動向について【報告】

- ・2023 年 4 月 12 日（本日）現在

正会員：個人 80 名 2 団体 賛助会員：個人 30 名 2 団体 計：個人 110 名 4 団体  
(合計 114 名・団体)

(2022 年度まででの退会を申し出られていた賛助会員 5 名が減となった)

### (2) 第 2 号議案 年度当初にあたり会内外の現状分析について【報告・討議】

- ・会員は、ご自分が高齢化とか現役を退き時間がたったとか、リアルで分かりやすい共同保存が実現しないなどが理由かと思われるが、少しずつ退会者が続いている（100 人を超えていた正会員が、10 年間で 80 人に減少した）。
- ・活動を担う層が、図書館を退職後に時間が経ち、現場との距離が遠くなっている。また当初から担ってきた方々の中に身体や家庭の事情などで思うように動けない人が出てきている。担い手が細っていることを直視しなければならない。
- ・一方で多摩地域の図書館にアンケートを取ると、図書館間で希少なタイトルは残しあおうという意識と、そのために自館で除籍候補となった図書は他の自治体の所蔵を調べ、希少な残しておくという業務は、徹底性の度合いの違いはあれど、全体に定着している。TAMALSA 個別処理システムの活用は浸透している。多摩デポが提唱したことは、多摩の図書館の日常業務に確実に入っていると思われる。
- ・3 月末には、北海道立図書館を事務局とした北海道図書館振興協議会の研究チームが『資料を護り、未来の利用者へ残すために ～資料の共同保存と除籍を考える～（調査研究報告書）』を発表した。道内の公共図書館にアンケートを取り、道内事情も分析した丁寧な研究である。多摩デポにはメールで取材も来ていたが、「第 1 章 社会的背景と現状」の冒頭で私たちの活動が紹介され、「第 3 章 先行事例」では、全国の 4 事例（道内の北見地域の事例を含む）の一つとして、2 ページを使っているのに紹介されている。
- ・報告書は、多摩デポに一部送付されてきているが、内容は北海道立図書館のホームページから閲覧できる。

- ・多摩デポが続けてきた活動の方向は、いまや公共図書館界で注目され評価されていると言えるだろう。数年前には、全国公共図書館協会による全国の調査報告の発表もあった。共同保存の問題は公共図書館界の無視できないテーマになりつつあると言ってよいようだ。

(3) 第3号議案 2023年度通常総会の議案書について【報告・討議】

- ・前回の理事会に提出した議案書(案)との変更点を説明し、討議した。

<第一号議案 2022年度事業報告承認について>

- ・p3の多摩デポ講座「東京都公文書館見学会」の説明部分を加筆した。
- ・p6の関係文献等のリストの最後に、3月に発行された北海道図書館振興協会の調査報告書を加えた。

<第二号議案 2022年度決算報告及び監査報告承認について>

- ・会計担当より、活動計算書、計算書類の注記、貸借対照表、財産目録の案を提案。
- ・収入については、会費収入と寄付金収入の前年比や現状について。
- ・支出については、「ブックレット⑩」の制作費の支出が、用紙代の高騰により、大幅に増えたこと。
- ・例年のことだが、売れずに在庫中のブックレットが「財産」の扱いとなり、分かりにくくなっている。
- ・昨年度の帳簿の間違いに気づき、計上外費用 2,000 円の支出として訂正している。

<第三号議案 2023年度事業計画決定について>

- ・p10の基本方針の後半「なお、以下のような課題が挙げられる」以下の文章を整理した。
- ・p12の「資料保存・提供のセーフティネットの確保」の文章を整理した。
- ・p12の「総会記念講演会」の講師が、国立国会図書館内での調整で変更になった。
- ・p13の「多摩デポ実践講座」の企画の説明は、現状ではこのような表現になった。
- ・p13の「多摩地域ライブラリアン講座」は、現役職員を対象に事前申込制で行う連続講座。新企画で事務局内議論も尽くされていないが、別紙企画書で説明する。

「多摩地域ライブラリアン講座」(提案説明)

- ・実践講座だけではまだ発掘できない現役職員との関係を掘り起こしたい。
- ・現役職員が多摩デポの活動に共感し働き手になってくれることも意図するが、講座プログラムにも資料保存の講座を加えたい。
- ・先に始めた実践講座は職員向けの単発講座だが、今のところ手ごたえが弱いので同様に職員限定とするが、申し込んで登録した方に連続講座を行いたい。

- ・登録者だけが利益を得ることになるため、受講料を徴収する形にしたい。
- ・事務局内でも、講師を頼んで回数の多い講座ができるかという不安は大きい、職員との繋がりを生むため、単発講座も連続講座も両方やってみたい。
- ・「館長会」に事前説明はしたいが、受講したい職員個人の申込制で出発する。
- ・多摩デポは多摩の図書館活動を基盤にしているので、その基本線は伝えていく。しかし「市民の図書館」理念だけでなく、新しい知見を盛り込む内容としたい。そして多摩デポが標榜してきた資料保存のことも伝えていく。
- ・講座方法は受講する職員の多忙を考え、遠隔講義を中心とする。受講者はまず自分の都合のいい時間にオンデマンド講義を視聴し、出された課題に返答する。次に ZOOM を使ったオンライン講義で、疑問や課題解決の手順等を講師から聞く。そこで受講者とのディスカッションも行う。次にリアルに集まるワークショップに参加しグループで討議し、ブラッシュアップしていく。最後に終了レポートを書いてもらう。
- ・受講対象は、多摩地域の公共図書館職員（正規職員、会計年度任用職員）、指定管理者の職員など。
- ・募集定員 12 名。オンデマンド講義の公開期間は 3 か月。専用サイトに置いておき、受講者は任意の時間にアクセスして受講し、課題に回答する。その後のオンライン講座は 2 日間。最終的には多摩デポ理事長名の修了証を出す。
- ・受講料 5000 円。受講者は必ず多摩デポ会員である（なる）というような縛りはしない。ただし多摩デポメーリングリストに加えて情報提供したり、『多摩デポ通信』を送るなどのフォローはする。
- ・この講座のための専用 Web サイトを置き、サポート体制は作りたい。
- ・総会に提案し、承認されれば 1 年がかりなので早めに進めていきたい。
- ・提案は以上。カリキュラム原案は省略。

#### 「ライブラリアン講座」についての討議

- ・まず、やれるのかが第一の疑問。事務局内の議論はどうだったのか？
- ・事務局内でも、プログラムや講師数が多い。ここまでのことをできるか、応募者が集まるか、もう少し絞ってやるべきでは？の意見もあった。提案者からは、あるレベルのものを出さないと興味ある人の食いつきが期待できないし、今の現場にはやる気のある人もいるという反論があった。不安に思うのは、現場から離れていることによるものでは？趣旨はいいが、自分は講師・コーディネーターは引き受けられないという感想もあった。
- ・非常に意欲的な企画なことは理解する。オンデマンドでの受講を踏まえ、オンラインで深めるということだが、自分にはノウハウがない。コンテンツ作成のモデルが欲しい。

- ・多摩地区の職員研修は現在は、職員研修所で基礎的な図書館サービス講座が3日間あることや、図書館サービス研究会によるレファレンス研修、都立図書館主催の研修ぐらい。私が司書になった頃は自主的勉強会があり他市の状況などを入手できたが、今の世代はそういう関係はなさそう。刺激的なブラッシュアップができるような研修内容を示せば、そのままでは埋没しかねない若手職員たちのキャリアアップに繋げていけるだろう。
  - ・やる気ある職員を後押ししていかないと多摩地域の次の世代は育っていかない。これらのプランを提供できるのは、日図協ではなく多摩デポではないか。
  - ・オンデマンドとオンラインを組み合わせた企画なら、インパクトもあり宣伝しやすい。
  - ・現場から既に離れていることへの不安。私の感覚では厳しい。
  - ・実践講座を2年やってそれだけでは物足りないことがわかったので、前向きには考えている。
  - ・2月に多摩地域図書館大会に参加してみたが、参加していた職員の様子からは、DXの問題をはじめ、将来的な不安をかなり感じた。
  - ・昔は職員が集まれば誰かがリーダーシップを発揮したが、今はそれができているか疑問ということであれば、インパクトある事業をどこかでやらなければいけないのではないか。
  - ・TAMALASなどで成果を上げてきたが、多摩デポ15年の帰結として、全体的な図書館の底上げ、能動的に資料保存を考える職員層の啓発など、インパクトのある事業を考えたい。どうしたらこれが成功するか、やってみて、それをベースにまた考えるということが必要ではないか。
  - ・具体的なカリキュラムについてはまだまだ練る必要がある。それは宿題として、総会の議案提案としては妥当ではないか。
  - ・館長会で承認された「除籍ガイドライン」に対して、講座プログラムの中で多摩デポとしての評価、今後に向けての考え方などが話せるといいのではないか。
  - ・できれば、特別会計のような独立採算型のようなものにしたい。
  - ・事務局内の不安は私の不安と重なるが、若手のやる気にも期待したい。
  - ・一石を投じないと見えてこないなので、中身はさらに詰めるとして、提案に賛成。
  - ・原案作成者の思いを受け止めて、理事、事務局の協力を求める。講師には理事も入るので、プログラム会議に理事が参加する形も取れるのではないか。
- ・p15の「意見交換会」の趣旨だが、会員を長く続け・支援を続けていただき、しかしある日無言のままで退会される傾向に、会として一工夫したい。

< 第四号議案 2023年度活動予算決定について >

- ・会計担当より、活動予算書（案）を提案、全般的に説明。
- ・会員増による会費収入のアップ、大幅な寄付金のアップがないと、経費がかかる事業を組むことが困難。
- ・新たなブックレット制作は見送らざるを得ない。
- ・制作費の高騰もあるが、次年度以降のブックレットの制作・発行は（続けたいが）難しい。理事会でもブックレットの意義や今後どうするかを考えていく。

<第五号議案 任期満了に伴う役員の改選について>

- ・前回の提案通り。

→ 第一号議案から第五号議案まで、ほぼ了承。新規事業の「ライブラリアン講座」を有料にすることになったので、第四号議案の予算案を組み替え、理事会メンバーリストで再提案する。

(4) 第4号議案 総会までのスケジュールについて【報告・討議】

- ・4月末の連休前に、議案書、総会開催の案内、書面表決票、会費納入のお願い、『多摩デポ通信』第63号、ブックレット⑩などを同封し、会員へ発送。
- ・5月9日（火）夜8時に意見交換会、12日（金）に書面表決票の提出締切。
- ・5月21日（日）の総会後には、承認された新理事で理事会を開催し、正副理事長を互選してもらう必要がある（法務局変更登記申請、東京都役員変更届のため）。予定しておく。

(5) 情報交換その他

- ・(株)カーリルとの共同研究で取り組む、府中市立図書館の蔵書目録のISBN未記入データにISBNを推定する事業のテスト作業を、事務局内で分担し行っている。4月15日が集約日で、(株)カーリルに結果を返す。共同研究定例会は、その結果を元に(株)カーリル側で次のデータを用意することを想定し、5月に行う。
- ・『多摩デポ通信』第63号は、総会への呼びかけ、総会記念講演会案内、都立公文書館見学会報告、北海道図書館振興協議会の共同保存の調査研究報告書の内容紹介などを掲載し、4月27日に発行予定。

【多摩デポ関係記事】

- ・時になし

【共同保存図書館関連論文】

- ・『資料を護り、未来の利用者へ残すために～資料の共同保存と除籍を考える～

(調査研究報告書)』 北海道図書館振興協議会調査研究チーム 北海道図書館振興協議会 (事務局：北海道立図書館企画支援課) 2023.3

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究 定例会 2023年5月15日(月)午後8時より、  
(Zoom会議)
  
- ★ 事務局会議(2023年度第2回) 未定
  
- ★ 次回理事会 第2回理事会 2023年5月21日(日)総会後

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、保坂一房理事、堀 渡理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2023年4月12日

議長

議事録署名人

議事録署名人